

## 日本海洋学会 2013 年度第 3 回幹事会 議事録 (案)

日時：2013 年 7 月 19 日 (金) 13:40～17:55

場所：パレスサイドビル マイナビルーム 2 F-V

出席者：植松会長、須賀副会長、岡、神田、杉崎、鈴木、原田、日比谷、山中、寄高、事務局毎日学術フォーラム (出戸、平坂)

欠席者：小畑、川合、河野、久保田、津田

### 議題

#### 1. 議事録 (案) 確認 (神田幹事)

2013 年度第 2 回幹事会議事録を確認した。

#### 2. 審議事項

##### (1) 入退会について (岡幹事)

入退会 (4～5 月) を承認した。39 名の純増であるが、多くは学生会員の春季大会発表に伴う入会と考えられる。なお団体会員であった各海洋気象台が、組織替えに伴って退会となった。

##### (2) シンポジウムの後援・協賛等について (岡幹事)

6 件について、庶務幹事からすでに ML を通じて審議し承認したことが報告された。

##### (3) 庶務：募集・推薦等の依頼 (岡幹事)

庶務幹事から 12 件について適宜 ML を通じて周知、対処したことが報告された。

##### (4) 大会 (研究発表) 運営について (鈴木幹事)

・2014 年度秋季大会について、長崎地区会員により 2014 年 9 月 13 日～17 日に開催予定であることが了承された。9 月評議員会で承認する予定である。なお、会長から中田英昭会員を大会委員長として委嘱することにした。

・また、2015 年度春季大会について、気象庁所属会員により東京海洋大学品川キャンパスを会場として、3 月末 (日程未確定) に開催予定であることが了承された。通常は 3 月の評議員会で承認する事項であるが、気象庁所属会員の希望により 9 月評議員会での承認を受け、委嘱手続きを行う予定である。

・大会開催に伴って生じた残金 (繰越金) の扱いについて 2013 年度春季大会実行委員会から照会があり、学会への戻り金としてもらう様要望した。大会実行委員会が通例で次回委員会に繰り越している 100 万円を除いた残金 64 万円のうち、34 万円が学会に入金 (学会からの大会開催費 40 万円と合わせ計 74 万円) され、残り 30 万円は秋季大会実行委員会に繰り越した旨、報告された。

・2013 年度春季大会実行委員会から、春季大会での研究発表のため学会に入会する場合、新年度からの入会してもらえば可であるという取扱を学会として承認した上で、次回以降の大会にも引き継ぎ事項として欲しい旨要望があったことが報告された。幹

事会として承認し、以後の大会への引き継ぎ事項とすることを確認した。なお、議論の中で、3月末で退会する場合の春季大会での発表資格に関して問題が残ることが指摘された。

(5) 2013年秋季大会シンポジウムについて（鈴木幹事）

シンポジウム6件、ナイトセッション2件、集会2件について、SMP-2とN2は主催者を日本海洋学会にすること、M1は日本海洋学会主催かまたはSMP-3と同様の主催者とするを条件として承認した。

(6) 若手集会助成募集について（須賀副会長）

7月12日締め切りで公募した結果、1件の応募があった。審議の結果10万円の助成を認めた。ニュースレターに掲載できる形式の報告書を徴することとした。

(7) 2014年度名誉会員推薦について（岡幹事）

推薦候補者を選定し、次回評議会にて審議することとした。

(8) 大会参加費について（植松会長）

学会財政の現状を考慮し、大会を収益事業とみなして、その収益の一部を学会財政に組み入れ、学会活動の活性化を図ることを考えたいとの提案が会長からなされた。大会実行委員会と学会本体との関係を含め種々の議論を行った。当面は学会の財政状況のアピールに努力する。また9月評議員会に何らかの提案をするため、幹事会で準備することとした。

(9) 海洋未来技術研究会との連携について（植松会長）

海洋未来技術研究会会員が4社しかなくなったので、研究会側で入会を募ると共に、研究会から依頼されて会長名の文書を用意したことが報告され、承認された。特典として、大会等での展示等の出展費割引、刊行物の広告掲載料割引の提案が研究会側からなされ、これについて審議した。展示等は大会実行委員会の管轄であり、特典にできないことを確認した。広告掲載料の割引を現行の掲載料規定を入手の上、会長・庶務幹事で検討する。

(10) その他

（神田幹事）奨励論文賞の要件緩和について、論文賞選考委員会で検討していることが報告され、幹事会としても会則改正等の検討を行うこととした。

## 報告事項

(1) 会長（植松会長）

- ・大型研究計画の現状について報告があった。
- ・海洋政策学会と沿岸域学会の連携、海洋研究におけるオーストラリアとの連携、WESTPACの25周年を記念した「旗」の作成、ベトナムでのWESTPACシンポジウム、AOGSへの対応の必要についての報告がなされた。
- ・学会財政の悪化に関連し、賛助会員の増加、海洋未来技術研究会の活性化、JO投稿

料徴収等に関して検討を行っているとの報告がなされた。

(2) 副会長（須賀副会長）

日豪マリンフォーラムの前2日間（7月11日、12日）、日豪海洋科学ワークショップが開催された。共同議長はJAMSTECの白山理事とAIMSのジョン・ガンCEOであった。珊瑚と酸性化、生態系の地球環境変動に対する耐性、新しい海洋観測モニタリング技術、などが議論され、大型研究で磯辺会員が中心に取りまとめたプロポーザルが紹介された。

(3) 庶務（岡幹事）

・5月20日に陸水学会より「学校教育における陸水域を対象とした指導への学術的な疑義に対して学会としてどう対応するか、対応策や過去の事例等がありましたら情報をご開示いただきたい」という内容のアンケート依頼があり、回答を行った。

・6月6日にNHK静岡より、1954年のビキニ実験についての情報を教えてほしいとの依頼があり、関連図書を先方に教示した。

・6月7日に、東大海洋アライアンスから「海洋教育カリキュラムコンクール」の審査員を出してほしいとの要請が庶務・教育担当幹事にあった。女性との希望だったので、川合幹事を審査員に推薦した。

・6月27日に恒星社厚生閣から、日本海洋学会環境問題委員会で執筆した「明日の沿岸環境を築く」の中国語訳を出版したいという連絡を受けた。当時の関係者や海洋環境問題研究会の速水現会長の承認が得られたので、承諾と回答した。

(4) 編集

①JO（日比谷編集委員長）

発行状況の説明があった。概ね順調に刊行しているが、悪質な二重投稿例が発覚した。また、自己剽窃の疑いの高い投稿があることも報告された。宗林委員の後任は引き続き選定中であるが、エマーソン委員からも退任の申し出があって、後任の選定を開始した。

②海の研究（岡幹事、久保田編集委員長の代理）

刊行と編集状況について報告があった。経費削減のため、冊子体の印刷会社について、現行と新規の2社を対象にヒヤリングを行うなどして比較を行っていることが報告された。

③ニュースレター（植松会長、津田編集委員長の代理）

刊行状況が報告された。印刷会社を変更することで大幅にコストダウンができた。

(5) 広報（杉崎幹事、原田幹事）

秋の大会の研究発表申込の締め切り延長について、学会HPでの告知が遅れた旨、報告された。パンフレットについて、大木会員と原田幹事が担当している。1000部印刷で8万円程度の費用がかかる。

(6) 日本地球惑星連合（原田幹事）

来年度大会の日程と会場の報告があった。プログラム委員として寄高幹事と原田幹事が出ている。連合発行の新雑誌について、日比谷幹事がエディターをつとめている。

(7) 海洋未来技術研究会・日本海洋科学振興財団（須賀副会長）

海洋未来技術会の海外渡航費用に残金があるので、今年度下半期に追加募集をする。

(8) 将来構想委員会（岡幹事、津田幹事の代理）

5月22日のJpGU大会でマスタープランの2提案を紹介した。将来構想報告書は生物サブワーキンググループのものが海の研究に受理された。

(9) 震災対応（神田幹事）

秋の大会で、震災の環境影響に関する特別セッションが設置され、ナイトセッションも実施される。8月7日に放射能研究に関するワークショップが東大生産技研で実施される。

植松会長から、震災対応ワーキンググループの最終報告書について津田幹事がとりまとめ中で、印刷公刊の道を探っている旨、補足があった。

(10) ブレークスルー研究会（岡幹事）

教育問題研究会と合同で開催する秋季大会シンポジウムのコンビーナー就任の依頼が教育問題研究会・ブレークスルー研究会担当幹事に対してあり、岡幹事が受諾した。

(11) 若手支援（須賀副会長）

集会援助だけでなく、若手の活動を啓発する機会を秋の学会等で設けたい。

(12) その他

（植松会長）衛星観測に関するタスクフォースのメンバーの推薦依頼があり、小松輝久会員にお願いした。

次回幹事会：2013年9月17日（火）18時から北海道大学（秋季大会中）で開催する。